

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3611513148		
法人名	医療法人 弘生会		
事業所名	グループホーム矢野		
所在地	板野郡藍住町矢上字西160-29		
自己評価作成日	令和2年1月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和2年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、戸外へ出て太陽と空気に触れることを大切にしています。幸い周囲は田畑に囲まれていて、農道を利用して散歩したり、買い物に行きます。天気の良い日には全員外に出て棒体操や創作体操をして体を動かします。地域の運動会や、もちつき大会にも参加させていただいております。ホームでの生活では利用者様同士が支えあい、励まし合う関係ができていて安心と安らぎを感じさせられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田畑に囲まれた、静かな場所に位置している。敷地内に、同一法人が運営する医療機関があり、医療面や季節ごとの行事、食事などにおいて、協力体制を築いている。地域との交流を大切に考え、町内会で開催される清掃活動などに参加したり、地域の防災訓練に参加したりして、事業所自体が地域の一員として活動している。敷地内の庭で、利用者と職員が体操をする際は、地域住民が参加することもある。事業所に来客があった際に、お茶を出す接待担当の利用者がいるなど、一人ひとりの希望やできることに応じて、生活の中で役割を設けている。また、職員研修にも力を入れ、個別の知識・技術の習得による、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で暮らす安心と安らぎ」を理念に掲げ、管理者と職員は共有して実践に取り組んでいる。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。朝礼の際に理念を唱和したり、共用空間に理念を掲示したりして、職員間での共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	役場や、民生委員さんと交流を図りながら、地域の高齢者や子供たちとつながりを持った暮らしに取り組んでいる。	事業所では、地域の一員として、運動会・餅つきなど、季節の行事に参加している。町内会にも加入し、清掃活動や草抜きなどを行うことで、日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方にも地域の行事に参加し、地域の方と一緒に作業や運動に取り組んでいる。地域の方とは、顔見知りの人も多く、理解、支援していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に行っている運営推進委員会には、家族や利用者本人も参加し、利用者自身からの意見や感想も報告されている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者や家族等、町役場担当者、民生委員などの出席を得ている。日ごろの取り組み状況や行事内容等を伝え、出席者から率直な意見を得ている。出された意見は、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場担当者とは、日頃から連絡をとったり、運営推進委員会を通じて生活状況やニーズをお伝えしている。	職員は、定期的に、町の担当窓口を訪問している。報告書を提出するとともに、利用者や事業所の状況などを伝え、アドバイスを受けることもある。制度の変更等について、町の担当者に確認をとるなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームは、原則として拘束のないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠はせず、利用者が自由に戸外にでている。居室の鍵も設置していない。ご家族にはご理解いただいている。	事業所では、定期的に、身体拘束に関する勉強会を開催している。身体拘束の内容や弊害について、職員間で意識の共有化を図っている。利用者が外出する際は、拘束感を感じることがないように、声かけに配慮するなど、自由な暮らしに向けて支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、身体ばかりでなく言葉による虐待も見過ごされることがないように、研修会を設け話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は、成年後見制度の研修機会をもち、また利用者の関係する成年後見人と話し合いを持ちながら利用者を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書および重要事項を十分説明し納得頂いたうえで手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱や相談窓口を設け、その担当者を置いている。外部機関への相談ができることを説明している。意見要望は会議でまとめ改善している。	職員は、日ごろの支援や面談時に、利用者や家族等が意見や要望などを言いやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見等は職員間で協議し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ミーティングを開催し、職員の意見や提案を取り入れ事業所の運営に反映している。	管理者は、ミーティングの際に、職員から意見や要望などをききとっている。研修終了後にも、意見交換の機会を設けている。出された意見等を運営面に反映し、職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日々管理者や職員と接し、勤務状況や待遇を把握しており、職員が向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の質向上のため毎月事業所内外で研修の機会を設け、また外部での資格取得の機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員が同業者と交流できるよう研修会や勉強会の参加の機会を設け、意見交換やサービスの質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談者や本人からの声を良くお聞きし、本人の気持ちを尊重しつつ安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの不安に配慮しつつ本人の気持ちを尊重して、本人や家族との信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入時のアセスメントにおいて、本人や家族の要望を十分に受け止め、事業所として可能な限りの支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員はホームで生活を共にする中で、本人が持っている能力を位階支援している。また、利用者同士でも支え合う暮らしを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には少なくとも月に一度はホームに訪問して頂き、本院の近況をお知らせしたりご家族の様子を伺う機会を持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人や友人との関係を支援している。利用者が家族や友人に年賀状を出したり、電話を掛けたりすることが出来るよう取り組んでいる。	事業所では、利用者の友人や知人の来訪を受け入れたり、知人が入院したときに職員がお見舞いに付きそったりして、馴染みの関係が途切れないよう支援している。また、本人の希望に応じて、年賀状や電話などの支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が暮らしの中で関わり合い、また楽しみが持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者がホームで退去となった場合でも継続して支援が受けられるよう経過を見守り、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を本位にした生活を心がけている。本人の意向がわからない時は日頃の会話や行動、表情から情報を得て、昔していたことや趣味に結びつく生活を検討している。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの希望や思いを把握するよう努めている。意思の表出が困難な場合は、家族等から情報を得るなどして、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にこれまでの生活歴をお聞きすることやアセスメントでの情報を職員同士で共有し、本人の生活環境に近い暮らし方を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はバイタルチェック等で心身状態を把握し、本人との話し合いにより一日の暮らし方を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を尊重し、職員同士で意見を出し合って現状に合った介護計画を作成している。	事業所では、利用者や家族等の希望や一人ひとりの生活記録を活かして、介護計画書を作成している。定期的に、計画を見直すとともに、本人の心身の状況の変化に応じて、随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の生活記録を作成し生活の実態や気づきを記録している。全職員で共有し介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が同行できなくなった時の他医受診や買い物、公的機関への代行等、その時々発生するニーズに対して柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防署、役場などの地域資源を活用し、地域包括センターや地域の民生委員等の力を借りて暮らしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医のみならず、本人及び家族の希望する医療、または状況に応じて専門医の医療が受けられるよう支援している。	事業所では、本人や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。定期的に、協力医療機関の訪問診療があり、必要に応じて受診することができる。また、専門医を受診する際は、家族等と相談しつつ、職員が付きそっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の医師や看護師と常にコンタクトをとり、本人の健康管理について相談や支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院する時は、その医療機関に対して情報提供をしている。また早期に退院しホームでの生活が出来るように病院関係者や家族と話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合や終末期の対応について家族の希望や医師の判断のもと、事業所が対応しえる最大のケアについて、早い時期から家族に相談している。	事業所では、入居時に、重度化や終末期における事業所の方針について、利用者や家族等に説明している。本人の心身の状況の変化に応じて、家族や医師、看護師等の専門職などと協議しつつ、本人本位に検討し、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えてのマニュアルを作成し、全職員が周知している。また、随時看護師による指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	家族や職員、関係機関などとの連絡網を作成し、年2回の避難訓練を行っている。また、町主催による地震災害対策に参加している。	年2回、消防署等の協力を得て、防災訓練を実施している。日中や夜間を想定し、避難経路の確認や備蓄品の整備を行っている。訓練に地域住民の参加を得たり、職員が地域の防災訓練に参加したりするなど、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人権を尊重し、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉や声掛けを心がけている。	職員は、利用者一人ひとりを年長者として尊敬しつつ、尊厳に配慮した支援に取り組んでいる。本人の誇りやプライバシーを損ねることのないよう、言葉かけや対応を職員間で相互に確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が職員に希望や意思を表せるよう、日頃から馴染みの関係を築いている。職員は立案計画するとき、利用者の希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活を大切にしながら柔軟な支援を心がけている、利用者の状態や希望に応じた生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみを支援し、外出時には本人の好みを把握し、選択のお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が協力し、利用者一人ひとりの能力を活かし役割分担を持って食事の準備をしている。	食事は、同一法人が運営する医療機関で、管理栄養士が考えたメニューをもとに作られたものを提供している。利用者一人ひとりのできることを把握しつつ、食事の準備や後片付けなどを一緒に行うことで、食事が楽しみなものとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設診療所の管理栄養士がたてた献立により栄養バランスがとれた食事をいただいている。食事残量や水分量を記録し、健康状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じ、各自口腔ケアを行っている。本人が出来ない部分は職員が介助で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間、おむつの利用者も可能な限り日中はパンツにし定期的にトイレにお連れし、排泄の意識を高めている。また、排泄を記録している。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。トイレ誘導や失敗があった際は、プライドを傷つけないよう、言葉かけなどに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表をもとに、便秘がちな利用者には水分摂取や運動などにより予防を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調を考慮しながら、少なくとも週3回は入浴できるよう支援している。また、シャワー欲は本人の希望によりいつでも利用できる。	事業所では、週3回は入浴できるよう支援している。希望に応じて、毎日でも入浴することができる体制を整備している。入浴拒否がある場合は、一人ひとりにあわせた声かけなどを行い、無理強ひすることなく支援している。季節にあわせてゆず湯を行うなど、入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣を大切に、日々時々の体調に応じた休息や就寝が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者個人が服用している薬について理解しており、利用者の状態変化に応じて主治医に情報を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や楽しみが継続できるよう支援している。共同生活の中で持っている能力が生かせるよう役割や楽しみを見つけ張り合いが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、気候により車いすや歩行器の方も戸外の空気に触れ散歩ができるよう支援している。また、買い物や外出、遠足等にも出かけている。家族の協力で外食することもある。	事業所では、気候のよい日には、近隣の散歩に出かけている。庭で体操をする際は、車椅子を活用するなどして、利用者全員が参加することができるよう支援している。家族等の協力を得て、花見やお祭りへの参加など、季節に応じた外出支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は利用者と一緒に買い物に出かける機会を設けている。嗜好品や生活用品の選択や買った品の支払いを利用者自らにさせていただくよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者はいつでも家族や友人に電話をすることができる。また、葉書等で年始や季節のあいさつができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの中心部には共有空間である居間兼食堂を配置し、利用者が集う場所となっている。そこを囲むように周囲に居室や台所、トイレを配置し、利用者が行動しやすい空間となっている。	共用空間は、事業所の中心に位置している。体操をしたり、トランプや将棋などを準備したりして、利用者一人ひとりが自由に過ごすことができる空間となっている。窓際にソファを設置するなど、景観を楽しむことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間である居間兼食堂には、テレビやブックスタンド、ソファ、機能訓練用平行棒等を設置し、寝たきりにならないよう、会話ができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた生活用品を置き、配偶者の位牌を置いて供養されている方もいる。	居室には、家族の写真や使い慣れた家具、仏壇など、利用者にとって馴染みのあるものを持ち込んでもらっている。本人や家族と相談しつつ、居心地よく過ごすことができるよう、配置などを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内外はバリアフリーで、居間兼食堂、トイレ等の共同空間は手すりを設置し、安全な環境づくりにいる。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で暮らす安心と安らぎ」を理念に掲げ、管理者と職員は共有して実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	役場や、民生委員さんと交流を図りながら、地域の高齢者や子供たちとつながりを持った暮らしに取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方にも地域の行事に参加し、地域の方と一緒に作業や運動に取り組んでいる。地域の方とは、顔見知りの方も多く、理解、支援していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に行っている運営推進委員会には、家族や利用者本人も参加し、利用者自身からの意見や感想も報告されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場担当者とは、日頃から連絡をとったり、運営推進委員会を通じて生活状況やニーズをお伝えしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームは、原則として拘束のないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠はせず、利用者が自由に戸外にでている。居室の鍵も設置していない。ご家族にはご理解いただいている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、身体ばかりでなく言葉による虐待も見過ごされることがないように、研修会を設け話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の後見人さんに職員も学ぶ機会を多く設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書および重要事項を十分説明し納得頂いたうえで手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度のミーティング以外にも朝礼時にも問題点を話し合う。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ミーティングを開催し、職員の意見や提案を取り入れ、偉業所の運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日々管理者や職員と接し、勤務状況や待遇を把握しており、職員が向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の場合も十分な人員の確保をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員が同業者と交流できるよう研修会や勉強会の参加の機会を設け、意見交換やサービスの質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望等はこまめに自室で、個別に話を聞く時間をとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談者はこまめに連絡をとり、状況を詳しくお知らせして安心してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全職員でサービスを導入する段階で情報を共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員はホームで生活を共にする中で、本人が持っている能力を位階支援している。また、利用者同士でも支え合う暮らしを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には少なくとも月に一度はホームに訪問して頂き、本院の近況をお知らせしたりご家族の様子を伺う機会を持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人や友人との関係を支援している。利用者が家族や友人に年賀状を出したり、電話を掛けたりすることが出来るよう取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう、出来るだけホールに出てきてレクリエーションに参加していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者がホームで退去となった場合でも継続して支援が受けられるよう経過を見守り、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を本位にした生活を心がけている。本人の意向がわからない時は日頃の会話や行動、表情から情報を得て、昔していたことや趣味に結びつく生活を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にこれまでの生活歴をお聞きすることやアセスメントでの情報を職員同士で共有し、本人の生活環境に近い暮らし方を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	役割分担への参加で自信を持ち、少しずつ出来るようになってきている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を尊重し、職員同士で意見を出し合って現状に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の生活記録を作成し生活の実態や気づきを記録している。全職員で共有し介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が同行できなくなった時の他医受診や買い物、公的機関への代行等、その時々発生するニーズに対して柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防署、役場などの地域資源を活用し、地域包括センターや地域の民生委員等の力を借りて暮らしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医のみならず、本人及び家族の希望する医療、または状況に応じて専門医の医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の医師や看護師と常にコンタクトをとり、本人の健康管理について相談や支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院する時は、その医療機関に対して情報提供をしている。また早期に退院しホームでの生活が出来るように病院関係者や家族と話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合や終末期の対応について家族の希望や医師の判断のもと、事業所が対応しえる最大のケアについて、早い時期から家族に相談している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えてのマニュアルを作成し、全職員が周知している。また、随時看護師による指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	家族や職員、関係機関などとの連絡網を作成し、年2回の避難訓練を行っている。また、町主催による地震災害対策に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人権を尊重し、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉や声掛けを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が職員に希望や意思を表せるよう、日頃から馴染みの関係を築いている。職員は立案計画するとき、利用者の希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活を大切にした柔軟な支援を心がけている、利用者の状態や希望に応じた生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により季節の衣類を買いに行く楽しみをもってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたいものの希望を聞き、季節のものを取り入れる工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設診療所の管理栄養士がたてた献立により栄養バランスがとれた食事をいただいている。食事残量や水分量を記録し、健康状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じ、各自口腔ケアを行っている。本人が出来ない部分は職員が介助で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間、おむつの利用者も可能な限り日中はパンツにし定期的にトイレにお連れし、排泄の意識を高めている。また、排泄を記録している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表をもとに、便秘がちな利用者には水分摂取や運動などにより予防を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望時に入浴をしてもらい、入浴できない時はシャワー浴、清拭で清潔にもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣を大切に、日々日々の体調に応じた休息や就寝が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合、医師に説明を受け職員全員で理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や楽しみが継続できるよう支援している。共同生活の中で持っている能力が生かせるよう役割や楽しみを見つけ張り合いが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、気候により車いすや歩行器の方も戸外の空気に触れ散歩ができるよう支援している。また、買い物や外出、遠足等にも出かけている。家族の協力で外食することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は利用者と一緒に買い物に出かける機会を設けている。嗜好品や生活用品の選択や買った品の支払いを利用者自らにさせていただくよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者はいつでも家族や友人に電話をすることができる。また、葉書等で年始や季節のあいさつができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの中心部には共有空間である居間兼食堂を配置し、利用者が集う場所となっている。そこを囲むように周囲に居室や台所、トイレを配置し、利用者が行動しやすい空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間である居間兼食堂には、テレビやブックスタンド、ソファ、機能訓練用平行棒等を設置し、寝たきりにならないよう、会話ができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた生活用品を置き、配偶者の位牌を置いて供養されている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内外はバリアフリーで、居間兼食堂、トイレ等の共同空間は手すりを設置し、安全な環境づくりにいる。		